

□ 法律研究部 □

私たち法律研究部の活動の目的は、法律の現象を通して社会を考察していく事にあります。

法律の現象の一つ一つは直接に法律の条文解釈の対象になります。又、社会からの要請として現れるために要請する側と反対する側を社会の構造の中に置いて、現象を政治や経済の視点から考察してゆかねばなりません。

例えば、教科書裁判(家永訴訟)は教科書の検定が教育基本法第10条、憲法第21条(表現の自由)に違反するかどうかが直接の争点となります。だが、この解釈論争の中には、教育を自らの権力のもとにより強固にひきとめておき、低賃金労働者の技術と思想を注入し、自由自在に教育を改編してゆこうとする政府・資本と改編が子供・教師や国民の教育権の侵害であり、攻撃であるとして抵抗する勢力が闘いをくり広げていることがみられます。

私たち法研の今年の活動の基本的姿勢は法を社会科学的に観てゆくことにあります。それは、現代社会の政治や経済の状態や動向から法の機能を探究することを意味します。

この基本的な姿勢のもとに、基本三法ゼミテーマ研究等の計画を立て活動を行なっています。

なお私たちのサークル活動は大学における自主的・主体的参加の活動ゆえに、大学の自治・学生の自治と大きく関わりあっています。今、明大のサークルは学生会館のロックアウト・必修科目のばらまき、時限ロックアウトなどによって、活動を阻害され、停滞を余儀なくされていると言っていると思います。

私たちのサークル活動は自主的に独自の分野における学習・研究活動をおし進めるとともに、学生の権利としてサークル活動を把え、学生会館ロックアウト・時限ロックアウトなどの妨害を、自治会を軸とした力で取り除いてゆかねばならないと思っています。

□ 明大ウォーキング部 □

ウォーキング(WALKING)活動とは何か……………

我々は日々妥協・転向をよぎなくされる『世の中』に於て、苦しいながらも結論を引き出そうと思う。

他のサークルがそうであるように、我々も単なる遊びの場・憩いの場としてウォーキング活動を捉えたいくない。あくまでも『自然・世の中』を媒介とした自分自身の『生』への厳しい問いかけであり、模索であると思う。そして、観念論で終わることなく、行動することにより、自分のものとしていく必要があると思う。対象は山・川・海・島だけに求めることなく、住民との対話も求めている。

このように書くと幅がありすぎ問題の焦点が捉えられないのではという疑問は過去もあったし、現在もある。でも、この四年間で七十余名の部員一人一人が漠然とながらも自分の方向性を見つける。これがとりもなおさずウォーキング活動ではなかるうか。

駿台祭参加には、部員の間でも賛否両論がある。でも二部という制約された条件にありがちな井の中の蛙となることなく、一般の人にアピールすることによってそこに、自分の状況を知る機会と考え、積極的に参加する次第である。

さて、今年度の駿台祭期間中の催しであるが次の二つを計画している。活動報告の展示と11月11日(日)に行なう一般公開徒歩ラリーである。一般公開徒歩ラリーの方は、部員以外の人と一諸に行動することにより、ウォーキング部そのもの、ひいては、我々自分自身をより理解することができるのではなかるうかと思う。

(文責、愛甲) 31

□ 経済学研究部 □

いつの日かは知らぬが、我部が創設されて大分たつようである。その間、二部の文化部の一つとして独自のサークル活動展開が成され、幾つかの低迷も見られたという話を聞いている。時には研連の調査部から手入れならぬ調査があったそうで、当時は先輩後輩が丸となって部の再建に懸命であったという。そんな裏話なども知らず現在の部員は、入学し入部し、前にもあったような部員間の不和や散逸を未だに繰り返している。どのサークルでも有り得る事だが、新入生を多目に獲得して、いずれその何割かは消えていく分子をふるいにかけるような結果になるのは、決して気持の良いものではない。いやそれが現実だと言ってしまう、割切れないものではないが、十数年も前から何度もしぼみかけつつも立派に今に至るサークル活動には、現役サークル員の簡単な理屈では表現し得ない集結された力が感じられるだけに、少々残念な気がする。何だかんだと言われつつも、その場その場で苦難に適した力が不思議と集結されてきた。ところがサークル浮気性とでも言うのか、一度自らの判断で決めて入ったサークルから、例の力をも見い出せず去って行く者の何と多いことか。

余り述べ過ぎると愚痴と誤解されるので止めるが、最近我部は、こうした傾向に自らをも見つめ直してやろうとしている。忙しい我々の生活の中で、サークルの存在意義とはと誰でもが問うていたのだが、いつの間にか問う必要がなくなって来ている。それは馴れ合いとかいうものではない。我々の欲望に欠けているものを満たしてくれるのである。

こうした現状から、また散逸と集結の繰り返しがやってくるかも知れないという懸念など一切おかない無しに、我々の力の及ぶ限り活動展開をしていく次第です。



□ 経 理 研 究 部 □

<散逸と集結>

今年は、我がサークルの創立20周年を迎える記念すべき年となりました。駿台祭では、従来の年間統一テーマの研究発表と同時に創部20周年の行事が行なわれます。

年間統一テーマは「資本について」です。資本主義社会における、株式会社の発展と巨大化、合併化に伴い、企業の社会的責任はますます大きくなってきた。

こうした中で、資本は、その調達源である一般大衆に向けての配当利益や金融機関からの借入資本の純財産の割合での将来性云々の問題がある。私たちは、今回は新たに会計学における資本に注視せざるを得ないわけでありませう。

- サークル創立 20年
- 現在部員数 144名(1年56名、2年38名、3年33名、4年17名)
- 年間行事 春・夏合宿(那古寮、信濃学寮)
春・秋球技大会(バレーボール、ソフトボール)
ハイキング、海水浴、駿台祭参加、OB会、忘年会、追出しコンパ
- 研究活動 初・中・上級各講座
会計学講座
年間統一テーマの研究

□駿台教育研究部□

我々は今、教育という現実の真只中にいて、その教育そのものに対して「問い」を発しようとしている。教育行政によって教えるべき事とそうでない事が体系的に整備されている公教育。それが我々にとって何なのかをかい間視てしまった今、与えられた教育を一切拒否する姿勢から、我々自身でつかみとって行く、我々自身の欲する教育の創造が始まるのだが……。

拒否しようとする教育の重さ——それは我々の内部に深く深く浸透し、我々自身の存在に自己矛盾を強いている現実がある。我々の欲すると言っても、我々自身の存在がすでに今の教育に犯され続けてきた存在であり、我々の欲するものも上昇志向に裏付けられた思考方法を前提としたものである。

教育する者（支配者）と教育される者（被支配者）は決定的に対立した存在としてある。しかし、それを我々が「国民」であるという規定のもとに、支配者のための教育を悪として、「国民」のための教育を善とする単純思考は誤りとせねばなるまい。どんな「国民」であろうと労働者であろうと、子供を目の前にした時は誰しも父母でしかない。実際の教育の現場においては、教育を委託されている教師と教育を受ける生徒とその父母によって教育が押し進められていく。そこにおいて、教える教師と教えられる生徒は決して主体と客体の関係ではない。無限の上昇志向を持つ生徒は積極的に教育を支えていく主体である。そして、この関係性（学校秩序）を「子供のため」を唯々願う父母＝「国民」が支えているのである。対立存在であるにもかかわらず、その質的内容としては将に共犯関係として、現教育をそして現社会を支えてしまっている存在なのだという事を視ていかなければならない。「かくあるべき」という発想からは何も生まれない。家永裁判で勝利したところで現実は何も変わりはないのだ。現実の1つ1つの事象を捉えかえしていかない限り何も創り得ないのだ。



□明治大学Ⅱ部・E・S・S□

アメリカの偉大な劇作家アーサー・ミラーによる『セールスマンの死』をごらんになりませんか。この物語は社会という縦糸と都会から取り残されてしまったようなビルの谷間で暮らす四人家族の横糸。それを織り上げてゆくのがセールスマンであり、一家の父親である主人公なのです。彼が苦心して織り上げたものは自己の生命を代償とした息子名義の保険金二千ドルだったのです。これ程息子に愛情と夢をたくした父親は、息子にとってどんな存在だったのでしょうか。彼は本当に幸福だったのでしょうか……？と問いかけてみたくなるような作品です。

またドラマと並んで私達は、初めての試みである『ディヴェイティング』を行ないます。これは英語討論のことで一種の競技です。このディヴェイティングは、見ていて、あるいはやってみて「楽しい」と思えるようになるには、高度な実力が要求されます。言いたい事がなぜか言葉にならない、そのくやしさを、もどかしさを今メンバー全員はかみしめています。何かわかってもらおうと身振り、手振り、視線、音、あらゆるものを総動員して、やっとわかってもらえた時の喜びが、「英語がしゃべれるようになりたい」と願う我がE・S・Sのメンバーの奮闘ぶりを御覧下さい。

□ 研連空手道部 □

「武道の『武』とは『才』を『止』めると書く。武の道は和の道である和の道である武の道を究めて、和の道を求むるのが武の道である。」これは空手道師範大塚先生の言である。皆さん、空手道と聞いて何を連想されますか。だれもが野蛮なスポーツだと思ってしまう。空手道は武道の一種であるが、その現代的な意義は、これによって心身を鍛え、志操を健全にし、人格の形成に寄与することであり、厳しい練習地味な鍛練の積み重ねは、球戯のような楽しさはありません。ことに二部学生の我々にとって、限られた時間に練習に励む以上、皆いろいろな目的を持って集って来ます。まず何といても身心の鍛練をあげることができましよう。それだけでも若さをかけるに十分なものがあると思います。ここにお目にかけてます演武は練習の成果であり、深淵な武道のごく一部にすぎないと思いますが、御覧になれば空手に対する違った考えが生まれるでしょう。そして表現できない面もお考えになられたく思います。我が明治大学研連空手道部は日本の空手界の主流である和道会に属し、大塚先生のもとで練習に精をだしております。創立十年を数え幾多の優秀なる成績を残し、研究部連合会にあって数少ない運動部の中枢として活動しております。

□ 文学研究部 □

何処で生きても流れ者 どうせさすらい一人身の
 明日は何処やら風に聞け 可愛いあの娘の胸に聞け
 ああ東京流れ者——



□ 音楽研究部 □

自らのまわりを変革していかなければ幸せになることはできないという素朴な感覚を失うことなく、青春時代と呼べる現在の一時期を音楽に魂を向けています。「大きな仕事ができるのは、若くて、無名で貧乏な人達である」という言葉がヤケに身にしみる此頃であるが、情熱と主体性のかたまりのような人間が60名程、サークルという組織の中で個人を殺して『我クラブ』を考えた時、漠然とでも芸術上の共通目標が存在するのはいたしかたのないところであります。

また、クラブの性格、体質と言ったものも年々よき(?)方向に進んでいっているのは決して悪しきことと考えられないのです。「自由がありえないから、我々は自由なのである」と言葉では言い切りながら、我々のクラブはまだまだ重い荷を背負っているのです。

駿台祭に臨んで、我音楽研究部は、期間中1階会議室において常時バンドの演奏を行ない、なるべく多くの人にアピールしようと考えています。

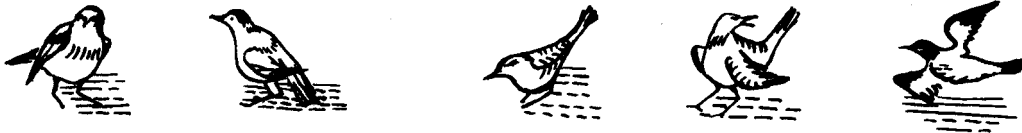
我々に発表の場があるのは1年に数回。その中の一つであるこの駿台祭において我々は意気込みを持って参加、アピールしたいと思います。

□ 地理学 研究部 □

棺桶に片足だけでなく
もう両両足を突っこんでしまったのが
今の地理研
そして
自分の入る墓穴くらいは自分で掘ってから
棺桶に横になりたいと願っているのも
今の地理研
そんなわけで
自分の墓穴くらい自分で掘るためにも
<まつり>に参加するつもり

□ 駿台映画製作研究部 □

また今年も秋がくるのですね。
駿台祭も秋になることの意味のように……。
始まる。
終わる。
冬への曲り角に落ちた青い枯葉かしら。
私の居る映研にコタツはないのです。
(☆ 22 番教室 (11 号館) で何か映画を！)



□ 史学地理学科 □

日本史専攻 4年有志

歴史シンポジウム

猪俣津南雄と「日本資本主義発展史論争(封建論争)」

日時 11月3日 pm3時~6時

場所 11号館 32番教室

講演 津村 喬 猪俣津南雄研究所

我々は、くり返し歴史と歴史学の中で、生きていく総過程の中で、そのあらゆる闘いの中で、「史観」を問題にして行く。そして現代は政治の中で日本資本主義発展史論争が社会党と日本共産党として一応の流れを通してきているわけだが、我々は、その論争の苦闘の中に、自らもどろ沼のごとく、「どちらなのか」として行く。

今ここでもう一度我々は、労農派の思想的支柱と呼ばれ、その実「論争」のさ中で、自ら農村(二府十六県にわたり)に入り、「農村問題入門」という一つの物をも作り出し、その「論争」を見限り又、労農派さえも離れて行った猪俣の中に現代の何かを見たいと思います。それは、我々の生き闘って行く過程に、その論壇又は、歴史学者の「論争」が現実的には、いかに速いのかも含めつつ。

□ 政治研究部 □

まずはじめにこのパンフレット掲載文を政研総体として提出できず私の個人的なものである事をみなさんに承知してもらわねばなりません。これまでの活動において駿台祭についてはほとんど語らず準備もして来ていません。しかし焦りながら何かしてゆこうと思っているのが現在の政研です。私はこのパンフレットを頼まれた時書くか書かないか迷いましたが今の政研の内で活動している私の日常的な事をみなさんに知ってもらいたいと思い書く事に決めました。現在私達政研部員のほとんどが昼間仕事を持っています。アルバイト・定職種々ですがやはり昼間働いている人々が集まっています。私達は昨年度から職場の事を主に話して来ました。さまざまな苦しさ、楽しさ、仲間での話し合いの事等がそれです。その中で私達Ⅱ部学生と中卒高卒の職場の仲間の違いが一つ一つ浮きぼりになって来ました。学校へ来たくても経済的な余裕が無い人、勉強が嫌いな人種々な仲間がいました。この仲間達からより多くのものを学ぶ事が私達Ⅱ部勤労学生の独自の活動をしてゆく基本だと考えています。私は4月会社へ入社しましたが職場での待遇改善を職場の仲間達と共に要求しましたが最終的に社長からの一方的な通告により8月いっぱい解雇されました。当然の要求に対して暴力的な対応をなしてくる事もありました。職場改善という事に対して何故あれ程までいやがらせを行ってくるのかと考え、他の人々に話した所やはり同じような事が種々な職場で行なわれていました。私達Ⅱ部勤労学生はアルバイト・定職を問わずやはり働かねば生活出来ないし、学校にも来れない事は共通していると思います。今まで私が述べて来た事をより多くのⅡ部学生のみなさんと共に話し考えてゆきたいと思っています。期間中やる事はまだ決めていませんがこのような事を追求してゆきたいと思っています。



□ 中国文化研究会 □

<はじめに>

中国文化研究会が今年の春に発足し、一年生中心に、シンポジウム及び勉強会等々の活動をとって、我々研究会の仲間と友好をはかってまいりました。この成果をみなさん方に見ていただくため、参加していただくために、勇気をもって駿台祭に始めて、参加することにしました。

<内容として>

文化とは一言にいえば「個人の人間性から、あふれる自由な目的と行動によって、生み出した深くて高い精神的なものである」

中国の中世<漢・唐時代>～近世<宋・元・清時代>まで、中国一代の文化を形成し、日本に多大の影響を及ぼした文化を、我々の仲間といっしょに勉強していくために、シンポジウム中心に内容充実をはかりたいと思います。

<最後に>

11月3日、4日には3Fの34番教室に、多数のみなさん方が、集まることを期待します。

□ 中国革命研究会 □

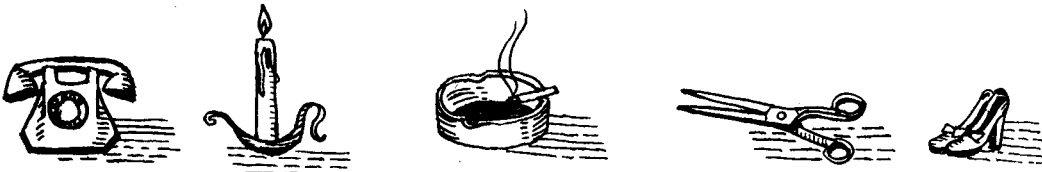
—— 1つのものが2つに分れる社会主義か社会帝国主義か ——

私達中国革命研究会は今日までまだ同好会として半年余の活動の経験しかありませんが、これまでに仲間たちと共に、毎週一回の学習会と夏季合宿を行って来ました。この中において私達は中ソ論争とプロレタリア文化大革命という二つの分工会をこの夏休暇中に持ち、駿台祭へ向け研究活動を続けて来ました。

現代世界はソ連のアジア集団安保と朝鮮—中国—ベトナム人民の闘いというように今や1950年代末に開始された中ソ論争が現実の世界政治の中で鮮明に表われている時代であります。日本政府もまた田中の訪ソの中で中国人民の信義に反する行為を行ない、ブルジョア階級の利益のため、日本人民の利益を売り渡そうとしているのです。今日の世界に有ってこのように、私達の全ての生活、政治上の方向性は、もはや、中国とソ連に代表される二つの社会主義国家の方向性をどう考えるかを抜きにしては打ち立てられないのです。

中国革命を研究する。プロ文革の研究の中から中国を知り、中ソ論争の研究の中から中国とソ連の異いを知り、世界の政治、自身の生活の中で活学活用する。中研の会場は現代世界の政治について、あるいは日本の有りかたについて疑問の有る方のよき討論の場として存在するように心がけています。他に中国の映画などを交えて、中国全般の討論も行ないたいと考えます。

映画 新ツアアの陰謀・夜明けの国(予定)



□ 明Ⅱ 自主上映の会 □

< 独立プロを考える >

『映画は、その誕生日がわかっている唯一の芸術である』(ベラ・バラージュ)

映画そのものの歴史は、人類の歴史とともに歩んできたはずである。しかし、映画が発見されたのは、フランスのリミューール兄弟、アメリカのエジソンにおいてなされた。このように映画の歴史に思いをはせることはたいへん興味深い。映画の歴史をたどることの意味には、やはりもうひとつの永遠なる命題が含まれているかと思うのである。それは「映画とは何如か」ということにつきるはずである。ルネ・クレール、「映画とは、つまり人間の欲望を表現したものである」と述べているのが印象的である。

さて、我が会にとって2回目の駿台祭である。今年、大島渚の創造社が解散した。独立プロの今後がとても気になるところである。そこで我々は1951年頃から自慰的な気分にあきたらず、自らの壁を破ってゆこうと決意した独立プロに主として焦点をあててみたい。

つまり、戦前、戦後10年間を通じて娯楽産業の王座を占めていた映画産業は、テレビ、その他多様な娯楽によって王座を追われてしまった。今や映画人口は、年間2億人まで下がってしまった。これは一つのシステム、すなわち、入場料を出して一本もしくは数本の映画(劇場映画)を見るという映画興行のシステムの限界を示すものである。映画(もしくは映像)は、増々多様化してきている。

その中で、自主上映、つまり、おのれの見たいもの、見せたいものを上映しようとする我々のサークルは、今回、『独プロを考えよう』とするのです。駿台祭参加企画として、展示会、映画音楽会、上映会を準備しています。当日は、多くの方の御来場をお待ちしています。